

## 8 .河道特性

本明川は長崎県諫早市の中心部を流れる流域面積 87km<sup>2</sup>、幹川流路延長 21km の一級河川としては全国で最も小さい河川であるが、長崎県では最大の河川である。

本明川は、上流の急流部から一気に、干拓によって延びた平地に移行し、その変化点に諫早市の市街地が広がっている。このため、ひとたび大雨が降ると、たちどころに洪水となって流出し、災害が生じやすい立地条件にある。

### 上流部（西谷川合流点上流）

上流部の本明川は、溪谷地帯を流下した後、兩岸に広がる棚田の間を流れ、平坦な河道には小規模な淵が点在している。また、川幅は狭く、高水敷はみられない。河床は軽石、礫などから成り、勾配は約 1/10 ~ 1/80 とかなり急である。

### 中流部（西谷川合流点～福田川合流点）

中流部の本明川は、多良山系の裾野を南下した後、諫早市街部において大きく屈曲して流れを東に変え、河道は高水敷がほとんどない単断面の形状を成している。河床は礫、砂などから成り、勾配は、公園堰上流は約 1/100 ~ 1/300 と急であるが、公園堰下流は比較的穏やかになっている。

### 下流部（福田川合流点下流）

下流部の本明川は、川幅が広くなり、田園地帯を緩やかに蛇行して流れ、ヨシやオギ等が繁栽する広い高水敷を形成している。河床は有明海より遡上したガタ土が堆積し、勾配は約 1/1,500 ~ 1/2,100 と緩やかで、概ね安定した状況にあるが、諫早湾干拓事業による湾奥部の締切り後は、感潮区間がなくなり、河床の低下傾向がみられる。

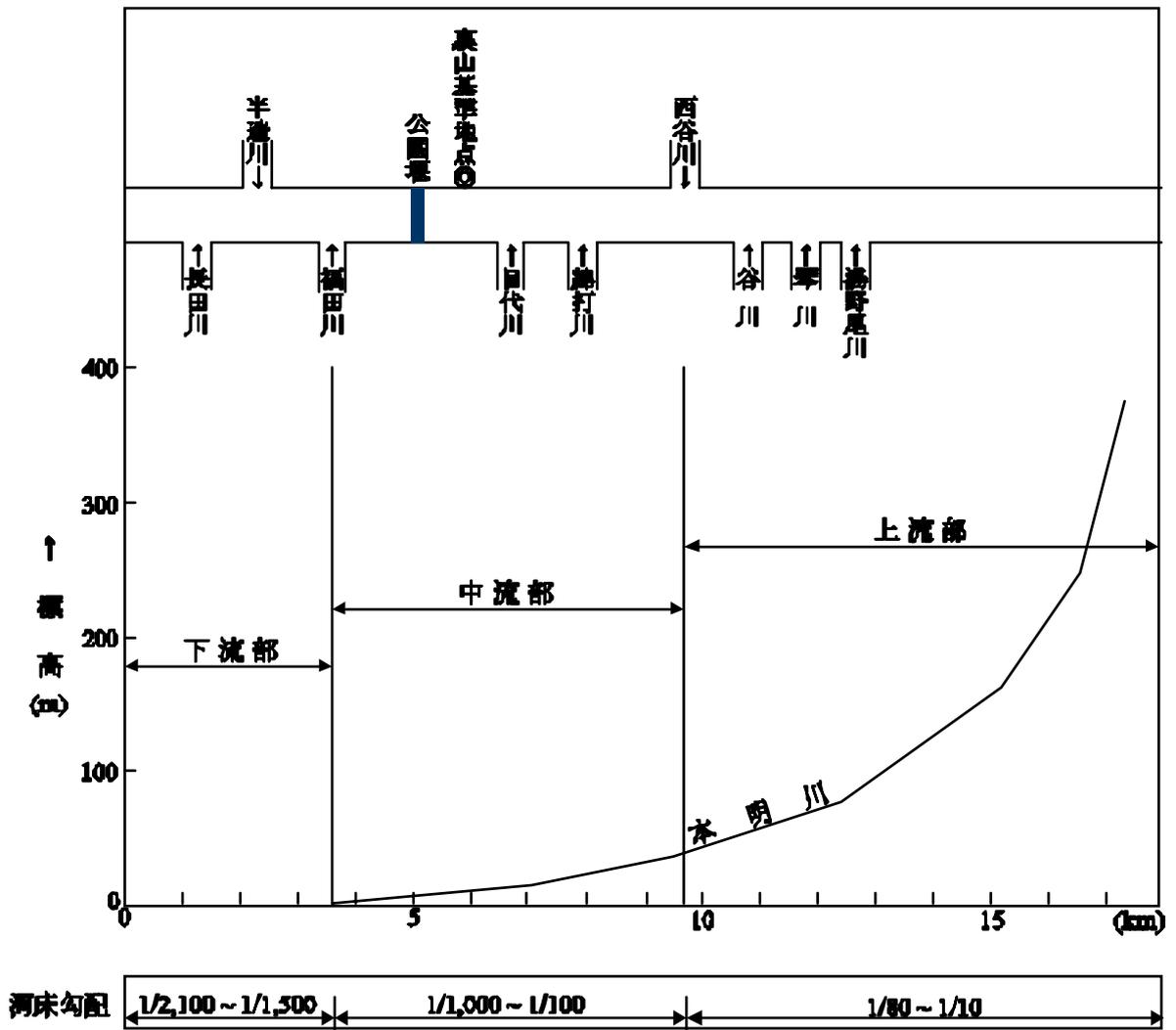


図8 - 1 本明川縦断図